

## 【 帯電防止鋼板 】

- ・一般の塗膜は電気抵抗が大きく、帯電した静電気の拡散速度は極めて遅いため静電気が蓄積されてしまい、最終的には放電して静電気障害を発生させます。

この放電をする際に製品を破壊したり、微粒子を引き付けて製品を汚染する恐れがあります。

このような静電気の帯電を防止するために、塗膜中に導電性物質(安定した酸化物等)を使用した、表面抵抗率が $10^2$  M $\Omega$ 以下の帯電防止鋼板です。(一般のポリエステル系塗膜は、 $10^7$  M $\Omega$ 程度。)

- ・金属や電気抵抗の低い物体では、帯電と同時に物体の表面や内部に速やかに移動拡散するので、静電気が蓄積しません。

### 【 塗膜性能の一例 】

項目	試験方法	帯電防止塗装鋼板	一般塗装鋼板
表面抵抗率	JIS K6911	0.1~ $10^2$ M $\Omega$	$10^7$ M $\Omega$
塗膜硬度	JIS G3312	3H	3H~4H
曲げ密着性(万力折曲げ)	JIS G3312	OT剥離なし	OT剥離なし
耐食性(塩水噴霧試験)	JIS Z2371	500Hr(異常なし)	500Hr(異常なし)

\* 上記の試験結果は、試験の一例であり、保証値ではありません。

### 【 用途例 】

- ・工業用クリーンルームの内壁材。
- ・OAルームの間仕切り材。
- ・その他の静電気の発生を嫌う場所の壁面等。

### 【 参考： 表面抵抗率について 】

試験片の表面に沿って流れる電流と平行方向の電位傾度を表面の単位幅当りの電流で除した数値。

この数値は、各辺1cmの正方形の相対する辺を電極とする二つの電極間の表面抵抗に等しい。(JIS K 6911の用語の定義より)

表面抵抗率は、シート抵抗または表面抵抗とも呼ばれるもので、単なる抵抗と区別するために [  $\Omega$ /□ ] 又は [  $\Omega$ /sq. ] (オーム・パー・スクエア) と表記される場合もあります。

